第三十回国連総会本会議における

中華人民共和国代表団
喬冠華団長の発言

外文出版社
北京

第三十回国連総会本会議における

中華人民共和国代表団
喬冠華団長の発言

（1975年9月26日）

外文出版社
北京

第三十回国連総会本会議における
中華人民共和国代表団黄冠華団長の発言

1975年 初版発行　　定価 50 円

出版者　外文出版社
（北京阜成門外百万莊）

発行者　中国国際書店
（北京 P. O. Box 399）

取扱店　東方書店（東京）亜東書店（東京）
中国書店（福岡）（株）内山書店（東京）
（株）満江紅（東京）朋友書店（京都）
（株）嶽原書店（東京）中華書店（東京）

編号：（日）3050—2650　　3—J—1384P
00015

第三十回国連総会本会議における

中華人民共和国代表団喬冠華団長の発言

（一九七五年九月二十六日）

議長

第二十九回国連総会の開催いらい、国際情勢には大きな変化がおこった。深刻な資本主義の経済危機が世界の大部分の地域を襲い、世界の各種の基本矛盾はいちだんと激化している。世界人民の革命的傾向はめざましく発展しており、アジア・アフリカ・ラテンアメリカ諸国人民は、植民地主義・帝国主義・覇権主義に反対する闘争のなかで力強く前進し、一連の大きな勝利をおさめた。一方、二つの超大国による世界覇権争奪は、ますます激しくなっている。世界全

体はいっそう激動し、不穏になっており、緩和という言葉できびしい現実をおおいかくすことはできず、戦争の危険はいちじるしく増大している。

まず指摘すべきことは、インドシナ三国人民の偉大な勝利が世界を震撼させたことである。カンボジア人民とベトナム人民は、アメリカ帝国主義とその手先を完全にうち負かして、全世界人民の反帝事業に大きな貢献をし、すべての被抑圧民族と被抑圧人民をこの上なく励ました。カンボジア人民とベトナム人民の勝利は、弱国が強国をうち負かすことができ、小国が大国をうち負かすことができるという輝かしい手本である。

アジア諸国人民は、超大国の干渉と支配に強く反対し、いかなる国であろうとアジアの各地域で覇権を求めることに反対している。東南アジアを外部の強国のいかなる形や方式による干渉をもうけない平和、自由、中立の地域にするという東南アジア諸国の主張は、ますます多くの国から承認され尊重されるようになっている。拡張主義と覇権主義に反対する南アジア諸国人民の闘争は、

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

新たな発展をみせている。西アジアでは、関係諸国が外部からの影響を排除し、平等な話合いを通じて、長期にわたって存在していた相互間の紛争を解決して、この地域の国ぐにの友好協力を実現するための有利な条件をつくり出した。また、湾岸諸国はいま連合して、ともに超大国の浸透と支配に反対している。

アフリカでは、モザンビーク、カポベルデ、サントーメ・プリンシペ、コモロなどがあいついで独立をかちとった。これは長期にわたる闘争、とりわけ長期にわたる武装闘争を堅持してかちとったものである。人種主義と白人の支配に反対するジンバブエ、ナミビア、アザニアの人民の闘争は、深化発展しつつある。アフリカ大陸の情勢は人びとを大きく奮い立たせるものである。

帝国主義と覇権主義に反対し、国家の主権をまもり、民族の天然資源と経済権益を保護するラテンアメリカ諸国人民の闘争はひきつづきもり上がっている。かれらは闘争のなかでさまざまな方式を用いてその団結を強化している。

このほか、われわれはまた、さいきんオセアニアでパプア・ニューギニアが民族の独立を実現したことに喜びを感じている。

旧い国際経済秩序を改め、危機の転嫁に反対するため、第三世界諸国は第六回国連特別総会の「宣言」と「行動綱領」にもとづき、いろいろな会議を通じて多くの合理的な提案を出し、たゆみない闘争をすすめて、いちじるしい成果をかちとっている。

第三世界諸国の団結と闘争は、政治分野から経済分野に拡大され、世界人民の反植民地主義、反帝国主義、反覇権主義の革命事業を新たな段階に推進している。

また、第二世界諸国も、超大国とりわけ社会帝国主義の支配、干渉、転覆、武力による威かくに反対する闘争を強化している。西ヨーロッパ諸国の連合して覇権主義に反対するすう勢は、ひきつづき発展しており、第二世界と第三世界は、相互間の対話と連係を強めている。こうした協力関係は主権の相互尊重

と平等を基礎としてうちたてられさえすれば、大きな発展の前途があるということは疑いのないところである。

米ソ両超大国の争奪は、全世界のいたるところでおこなわれており、ヨーロッパ、地中海、中東、ペルシャ湾、インド洋、太平洋、大西洋、アジア、アフリカ、ラテンアメリカにおけるかれらの角逐は激化しつつある。かれらは争奪の戦略的重点をヨーロッパにおいている。社会帝国主義は、東を攻めると見せかけて西を撃とうとしている。欧州安保・協力会議はこの点をおおいかくせないばかりか、まさにこの点を明らかにしている。二つの超大国もたえず取り決めをおこなってはいるが、こうした取り決めはみせかけのものにすぎず、実際にはいっそう大きな、いっそう激しい争奪がおこなわれているのである。

たとえば、昨年の十一月、米ソ首脳会談で攻撃用戦略兵器の制限についての原則的な取り決めが調印されたが、この取り決めはこうした兵器の量的制限し

か規定しておらず、しかもこの制限数は現在かれらがそれぞれ擁している数量を上回っており、その質にいたっては、いかなる規制もしていない。したがって、こうした取り決めが、戦略兵器を制限するための取り決めであるというよりも、戦略兵器を拡充するための取り決めであるということはひじょうにはっきりしている。実際の情況をみても確かにそのとおりである。この取り決めが調印されたあと、米ソ双方はともに、新型の戦略兵器の開発、配備に拍車をかけ、なんとかして相手側を圧倒しようとしている。

さいきん、ソ連側はまた、欧州安保会議の終結を利用して、さかんに宣伝をおこない、緊張緩和はすでに新たな段階を迎えているなどといっているが、これはまったく人をあざむくための言い草である。欧州安保会議に出席した広範な中小諸国の、安全保障を切に求める気持ちは、われわれにはよく理解できるし、これらの国が拘束力を持たない取り決めにたいし非現実的な幻想を抱いていないこともわれわれは知っている。ヨーロッパが依然として長期にわたる武

力の対峙という緊張した情況におかれているもとで、安全保障などということが実現されるはずはないし、緊張緩和にいたってはなおさらお話にならない。ソ連は会議場では「平和と安全保障」を大声で叫ぶ一方、会議場の外では緊張激化を策動した。ソ連は北ヨーロッパ海域と地中海にぼう大な軍事力を集結し、傍若無人に挑発活動をおこなっているばかりでなく、露骨にもイベリア半島までその手を伸ばしている。こうした口先での緩和、行動での拡張は、欧州安保会議にたいするこのうえない諷刺である。欧州安保会議が開かれたその最初から、われわれはこの会議をヨーロッパ危険会議だとみていた。いま、この会議は終わったが、ヨーロッパの安全保障は、いくらかでも強まったであろうか。われわれは強まっていないとみている。この会議は、ヨーロッパの根本的な情況を少しも変えてはいない。もし、天真爛漫にもソ連の宣伝を信ずる人がいるならば、それこそ真に危険なことである。

ソ連指導部はいわゆる「アジア集団安保体制」を片時も忘れていない。かれ

らの言葉によると、欧州安保会議が成功したのだから、われわれアジア諸国は欧州安保会議にみならうべきだというのである。これは実に絶妙な考えである。アジアの情況はヨーロッパと違っている。アジアではついさいきん、ひとつの超大国がインドシナから追い出されたばかりである。ソ連の下心は、アジアの安全をまもるというよりは、むしろ「空白を埋め」、同時に、その戦略重点をヨーロッパにおいていることをおおいかくすために、世界の注意力をアジアに向けさせることにある。欧州安保会議の強調している現存境界の不可侵の原則についていえば、これはアジアでどのような意味をもっているのであろうか。ソ連は、かれらが一部のアジアの国の領土を占領しているのは合法的であるということをわれわれに認めさせ、同時にまた一九七一年にかれらがやったように、あるアジアの国が他のアジアの国の現存境界を侵犯するのを支持するという権利をソ連に留保させろというのだろうか。はっきりいえば、ソ連指導部の鼓吹している「アジア集団安保体制」なるものは、アジアと太平洋地域で

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

もう一つの超大国と覇権を争奪するためのものであり、アジア諸国を分裂させ、支配するための手段なのである。長期の闘争を経て、自国の独立をかちとったアジア諸国は、自分自身が主人公となるには、決して「表門の狼を防いで、裏門から虎に入りこまれる」ようなことがあってはならないことをよく知っている。「アジア集団安保体制」というしろものにたいする中国の態度は極めて簡単で、第一に反対、第二に蔑視している。

レーニンは、帝国主義とはつまり戦争であるとたびたび指摘している。帝国主義と社会帝国主義が存在するかぎり、戦争は避けられない。世界覇権は帝国主義政治の内容であり、この種の政治の継続がつまり帝国主義戦争である。二つの超大国がともに世界の覇権を争奪している以上、かれらの間の矛盾は調和できないものであり、相手側を圧倒するのでなければ相手側に圧倒されるのである。いわゆる「力の均衡」がたとえあったとしても、それは一時的なものであり、表面的なものである。「力の均衡」あるいはいわゆる「恐怖の均衡」に

たよって平和の局面を維持するというのは、たよりになるものではない。フルシチョフの発明した、核の時代において平和共存以外に活路がないなどというのは、欺まん的な言い草である。もしソ連がほんとうにこういったことを信じているなら、なぜソ連は大々的に核兵器を開発すると同時に、けんめいになって通常武装力を発展させ、その防衛上の必要をはるかに上回る攻撃体制を維持しているのだろうか。超大国がこのように激しく争奪しつづけ、このように狂気じみた軍備拡充をつづけていくならば、いつかは必ず戦争をひきおこすに違いない。これは人びとの意志では変えることのできないものである。超大国は新しい世界大戦の策源地であり、戦争をおこす危険は主として野望に燃えた社会帝国主義にある。超大国がひん繁に会談をおこない、緊張緩和をさかんに口にしていることは、まさに世界に緊張緩和などはなく、まして恒久平和などはなおさらないことを立証している。当面の世界情勢の特徴は決して、あと戻りすることのない緊張緩和などではなく、新しい世界大戦の危険が日ましに迫っ

ているということである。

われわれは、各国人民がいま増大している新しい世界大戦の危険性にたいして警戒心を高め、備えをととのえておくよう希望する。備えがある方が備えがない方よりもましである。備えがなければ痛い目にあう。超大国はみかけは強そうであるが、実際はひ弱いもので、極めて孤立している。かれらのやる悪事が多ければ多いほど、かれらの正体はそれだけ徹底的に暴露され、世界人民の反抗もそれだけ激しくなる。いま、世界的範囲で、革命と戦争の要素はいずれも増大している。戦争が革命をひきおこすにせよ、革命が戦争をおしとどめるにせよ、国際情勢はつねに人民にとって有利な方向に発展するものであり、世界の前途はつねに光明にみちているものである。

議長

本国連総会で審議される問題はたくさんあるが、中国代表団はそのうちの若干の問題について、われわれの見解をのべたいと思う。

一、植民地主義反対の問題

過去の一年は民族独立と解放をめざすアフリカ人民の闘争が、ひきつづき大きな勝利をおさめた一年であった。ポルトガル植民地主義体制の崩壊と一連の新しい独立国の栄えある誕生によって、アフリカの民族解放運動はまったく新しい段階に入り、南部アフリカにおける植民地主義の最後のトリデは、闘争を堅持する広範なアフリカの人民と国ぐにの包囲攻撃のなかに完全におちいってしまった。

しかし、古株の植民地主義がまだ完全に滅びていないうちに、二つの超大国ははやくも手をさしこんできた。長期にわたって、アメリカはアフリカ、とくに南部アフリカにおける植民地主義的支配をずっと支持してきた。一方、「社会主義」の旗じるしをかかげたソ連は民族解放運動の内部にもぐり込んで挑発

離間をおこない、混乱をつくり出し、アフリカの民族解放運動を社会帝国主義の軌道にひき入れようとやっきになっている。

全世界のすべての革命的人民は、アンゴラの内戦に心を痛めている。民族解放運動内部の意見の食い違いは正常なことである。かれらにたいし、団結して共同で敵にあたり、植民地主義者を追い出すよう勧告することこそ正しい態度である。だから、アフリカ統一機構は武装闘争をすすめているアンゴラの三つの解放組織のいずれをも承認、支持して、アンゴラの民族解放運動の団結を促すためにたゆみない努力をつづけているのである。しかし、ソ連指導部は民族解放運動の親分をもって自任し、アンゴラの三つの組織が合意に達した、団結して敵にあたるという取り決めを無視し、そのマスコミを動員して、この一派は革命的だともちあげ、あの一派は反動的だとののしって、人為的に分裂させている。ソ連はまた、アンゴラの一解放組織に重火器を含む大量の兵器をおくっている。ソ連はこうしてアンゴラの内戦をひきおこした。もう一つの超大国

も遅れまいとしており、アンゴラの情勢はますます複雑になってきている。

中国は最初からアンゴラの民族解放運動を支持してきた。アンゴラの三つの解放組織にたいして、われわれはそのいずれにも軍事援助を供与し、かれらがポルトガル植民地主義に反対するのを援助してきた。われわれは三者の間に意見の食い違いがあることを知っており、団結して敵にあたるようずっと勧めてきた。アンゴラ民族解放運動がポルトガルと独立の取り決めを結んだあと、われわれはもはやアンゴラの三つの組織に新しい軍事援助を提供していない。これは事実である。事実は雄弁に勝っている。ソ連の中国にたいするデマ、中傷は事の真相を少しもおおいかくすことができないばかりか、逆にかれら自身を暴露したのである。

ソ連がひきおこしたアンゴラの内戦は、悪いことであるが、よいことでもある。よいことであるというのは、それが反面教材であるという点である。どの革命運動も紆余曲折をまぬがれがたい。広範なアンゴラ人民が挫折と曲折を経

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com